

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300935		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	岡山県津山市東一宮22-10		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 28 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、「部署を超えて職員が一丸となり利用者のニーズにこたえます」という目標を設定した。まだまだ当たり前の生活すらままならないコロナ禍が続いている。面会もその時々状況によって制限を緩和しながらご家族との絆を大切にしている。指針にもある敬愛精神の「できるためにはどうするか?」「諦めることなく、可能性を探る」を常に生かしてきた。感染対策の徹底したスーパーでの買い物で、手作りの食事は継続できた。三密を避けて、感染予防策を徹底しての散歩・外出も行っている。お花見は、一番の見ごろの時期に、目の前の公園へまんじゅうを持って出かけた。風が吹く度に桜が綺麗に舞って素晴らしい景色だった。四季を色濃く感じられるように、行事も様々な工夫を凝らした。職員が心を動かし、敬愛にいるすべての人が笑顔になれるように歩みを止めずに進み続けてきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370300935-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 11 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

統括の”本当の家と同じ”という願いの元、パートナー(職員)は常に利用者の立場に立ち、ケアに取り組んでいる。利用者、家族、職員、地域の”絆”を大切に、その時々出来ることを、利用者のために臨機応変に努めている。コロナ禍でも美作大学や美作高校の実習生を受け入れ、地域との繋がりをできる限り続けた。地域の祭りも、感染防止に留意し人数制限や縮小して開催した。家族とはSNSを活用し、利用者の様子を即座に写真で送ったり、伝達確認事項を伝えてスムーズな繋がりを持つ様に取り組んでいる。今年度から家族会や敬愛祭りを完全復活し、利用者は心から絆を感じられる時間を過ごせた。これらの前向きに取り組む姿勢は、職員の”心”を育て、利用者や家族の”心”和やかにさせている。理念である「心をみがき心を育て 心の目で見る」の三つの心は絆を大切にしたい毎日のあたたかいケアとなっている。職員と一緒に”ふるさと”や”茶摘み歌”を楽しんでいる利用者の表情は明るく、寄り添っている職員の表情も生き生きとしていた。利用者にとって”本当の家と同じ”となるように引き続き目指している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	敬愛の理念をしっかりと把握しており、「今日の目標」も一日一日理解し、日々実践していけるように努めている。新人オリエンテーション、実習生受け入れ時にも説明している。今年度は久しぶりの開催となった敬愛祭りのテーマとして、3つの基本理念の内のひとつ「楽しむ心をもつ」を用いた。	基本理念は「三つの心」で、指針も3項目あり、事務所と各ユニットのリビングに提示している。実習の際には、唱和している。職員宣言、毎日の目標、各棟の年度目標も掲げていて、日々の介護で迷った際や確認したい場合に、振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の役員さんと情報共有し、地域の催し物の際はできるだけ参加している。交友関係が保たれ、困り事などあれば相談にのって下さる。	グループホームにやってきた園児から手作りメダルを頂き、おかしの詰め合わせ渡したら喜ばれた。毎年、高校・大学の実習生を受け入れていて、学校繋がりや、アルバイトにきている職員もいる。敬愛祭りを開催した際には、家族や地域の方から「楽しかったです。ありがとうございました。」と感謝の言葉が聞けた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	美作大学、短大、高校の実習生たちを、感染予防のため観察方式の採用をして受け入れた。感染予防対策を徹底したからこそ実現できた。実習期間は大幅に変更となったが、実際に利用者さんから学ぶことが出来る実習の機会を確保し、未来の介護福祉士の育成に協力していきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	感染対策を行いながら2ヶ月毎の開催が継続できている。開催時には、ホームの取り組みや入居者さんの暮らしの様子をお伝えし、地域、行政の方と情報共有も行うことで、入居者さんがよりよい生活ができるように努めている。	町内会長2名、民生委員3名、愛育委員、地域包括センター、高齢介護課、家族代表が参加している。暮らしのようす、セラピードッグの話、敬愛祭りの案内、災害時について話し合った。玄関先に手洗いペーパータオルを置いていたら、感染上よくないとの声が挙がり、すぐに壁掛けに変更した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	疑問点、不明点など明確に答えがもらえて、良い協力関係が築けている。	窓口の基本は統括が担っている。マイナンバー申請時や加算時にわからないことがあり、直接市役所に向いて確認した。役所が近いので、できるだけ対面で話をするように心掛けているが、電話でやり取りをする場合もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員で研修を行い様々な事例について学び、それらをしっかりと周知していき、入居者さんに安心して暮らしてもらえるよう努めている。	委員会では、全国のニュースや事例を参考して、再確認の場を設けている。外部の「高齢者虐待防止研修」にも参加して、月1回の全体ミーティングで周知している。居室内のセンサーマットの安全点検を業者の方で行った。日中は玄関の施錠はしていない。スピーチロックについては、ミーティング時に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待を防止する為の措置を行う事」「早期発見と通報義務を果たすという事」をベースに、身体拘束廃止委員会が中心となって、研修を重ねて理解を深めている。外部研修にも参加し、全部署で研修報告を共有している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な家族の支援状況を把握し、その時々家族からの相談にも応じている。その際に理解しやすいように市役所から発行されている案内パンフレットも準備して家族の支援に努めている。成年後見人についての研修にも、毎年違う職員が参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染対策として、事前に書類を渡し、ご家族に確認と記入をしてもらっている。後日、不明や不安な点については対面で短時間で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者さんが何を感じているのか、何を必要(求めている)としているのかしっかりと理解しようと寄り添っている。ご家族とも度あるごとに電話や手紙で現況をお伝えしている。その上で、ご家族からの大切なご意見をもとに職員で話し合い、よりよい生活を送ってもらえるよう努めている。	面会は感染対策をした上で居室で行っている。コロナ時の面会をきっかけにLINEを始めて、些細なことでもやり取りがしやすくなった。急死された方の家族の方からは、「今までありがとうございました。」と感謝の言葉が聞け、信頼関係が構築されていたと実感できた。また、2ヶ月に1回、敬愛しんぶんを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見箱を設置し、会社がもっとよくなるように考えている。毎日のミーティング、個人面談、アンケートを行っている。職員一人一人の特性を活かしていき、皆でキャリアアップ、会社の向上を目指している。	各ユニットの朝礼や月1回のミーティングにて、意見を聴取している。事務所に意見箱を設置したら、数多くの意見が挙がり、玄関先の落ち葉拾い用の掃除機を購入したり、車イスが通りやすいように非常口を広げたりした。取締役も普段から施設に訪問されているので、何でも話せる関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、入職時に業務習得の見習い期間を得て自己評価を行い、ホーム長による一次評価、統括による二次評価を行い、給与、賞与に反映している。各管理者研修、実技研修で資質向上の機会を確保している。今年も自己評価表の見直しを行い改善に努めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修にも参加している。管理職は施設内研修により、専門的に管理を学んでいる。今年度は専門職として誇りを持つために、実務者研修1名受講している。全て会社負担であり、出勤扱いである。また、介護福祉士試験も受験予定である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	津山「ケア研究会」に参加している。家族の在宅勤務など様々な状況での混乱に対して、貴重な情報交換が行えた。他に新加算についての貴重な情報を得られた。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の申し込み時にも見学対応し、実際入居してからはまずご本人との関わりを大切に時間をとる。パートナーはご本人の生活歴と、これからの想いをすり合わせたプランを作成する。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の抱える困難と、本人の抱える困難が必ずしも同じではない。家族の視点からの思いを、場合によっては家族だけの時に聞き出す事も大切にしている。専門的意見として、利用サービス事業者からの利用時の様子も聞き取りを行い、入居時の支援に生かした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴、人生を探り可能な限り自宅や現在過ごしている場所で、本人の望まれている、好んでいる生活を感じて、環境が変わってもいかにして本人の望みをかなえるか？本人の秘めた力を引き出すサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「パートナー制度」で意識も変わってきた。他部署への応援が再開となったが、本来のチームワークが強くなっている為とても協力的である。施設内外の開催で、「敬愛祭り」も「大新年会」も職員のプログラムで買い物・大正琴・紙芝居と一緒に楽しみ、夕飯も共にし、暮らしを豊かにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	まだ面会制限もあるが、開かれた施設であるために、父の日、母の日には家族より手紙を書いてもらい、暑中見舞いでは少しでもご本人の字を書くことが出来た。そして職員の自己紹介を写真入りで掲載して配布した。家族より、福祉用具の寄付などの協力も多い		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族へ手紙や面会時に詳しくお伝えしている。以前お世話になっていたケアマネジャーの来所があり、久しぶりの再会に喜ばれていた。	面会は感染対策をした上で居室で行い、月2～3回訪問される方もいる。隔月でパートナー(担当職員)から、手書きの手紙、写真と敬愛しんぶんを同封し、郵送している。携帯電話を持ち込み、毎日家族の方との通話を楽しんでいる方もいる。春には鶴山公園で満開の桜、夏には地元の花火大会へ参加して、馴染みの場所を堪能できた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ屋根の下で生活を送って行く中で、時には口論となったり、一方的に怒るような場面もあるが、互いに自然と関係作りが出来ている。顔なじみの人の近くまで行き「話をしてみたい。」と、自分から積極的に触れ合う姿もある。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に乗り、入院中の様子を聞いている。必要に応じて医師、相談員との会議に参加している。退去後数回訪れて入院中の本人の事を話しに来られる家族や、電話連絡をしてくれることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネ、パートナーを中心に、一人一人の思い、意向を大切に、皆さんが望む生活が送れるよう支援している。	入居時にフェースシート、発症経過シートにて、経歴、家族構成、昔の過ごし方、趣味を把握している。口頭や申し送りノートを活用して、情報を共有している。「太陽を食べるぞ」と意気込んで、日向ぼっこをしたり、畑を耕したりしている。日中、リビングのソファでゆっくり横になっている寛いでいる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の面接を自宅や一番過ごしている場所で行う。家族の思いや入居前に担当していたケアマネジャーから得た情報を共有し把握に努める。生活歴の聞き取りに、フェイスシートを「心の聞き取り」の為に改善し使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムや趣向を把握。職員はチームケアの実施後の変化など、本人の行動パターン、言動の気づきも大切にしている。各自が、犬が大好きで自分が抱きたい時に可愛がったり、中庭に自由に出入りしながら隣の棟の人と会話を楽しむなどの自由を尊重している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各パートナー、職員とカンファレンスを行い、課題を見出し、本人の希望に添った生活ができるように努めている。普段より、日々のケアからその方の課題点や改善点等を考え、本人の生きがい等を見出して介護計画につなげている。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月後、何もなければ半年毎に見直しをしている。アセスメントシートを活用して、計画作成はパートナー(担当職員)とケアマネジャーと一緒に作成している。日常生活の作業でできることをプランに盛り込んでいて、モニタリングは、大目標は半年ごとに掲げていて、毎日の小目標と照らし合わせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はバイタル、食事、水分、介護経過をまとめて見る事が出来るようになっており、そこからの気づき、実践結果もアセスメントに活用している。さらに日々のケアの変更へつながる小さなカンファレンスを伝達ノートで共有した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに沿った医療的支援も実施している。「バルーンカテーテル」の管理や、本来は入院加療が望ましいが医療の指示の下、GHでの療養を継続している。今年度も介護実習生を受け入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設と地域交流の為の祭りは、今年6年ぶりに開催する事ができた。感染対策を徹底して、毎年恒例の年末の餅つきも開催予定である。また再開時、地域の方の参加が出来る時には、沢山の方を招待したい。年月を重ね、運営推進会議等での、常日頃からの関係作りの成果を大切にしたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特変があった場合は主治医に連絡を取り、指示を仰ぐことで、適切な医療が受けられるよう支援している。主治医も本当に親身になって家族、本人、職員の相談にのって下さっている。	かかりつけ医は全員が協力医に転医している。往診は月2回で24時間対応。朗読が上手な利用者がいて、ドクターから朗読のリクエストが入るくらい関係性が良い。馴染みの関係になり、ワクチン注射の拒否がなくなった。訪問看護は24時間対応で、毎週来所して頂いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問時に、様子・状態を伝え情報を共有した上で指示を貰う。必要であれば医師へつなげる。介護現場での不安や疑問に常に真摯に向かい適切に助言をくれる。アイパッドの導入により、迅速に画像が提供出来、連携がスムーズになった。現在尿道バルーン管理中。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、病院に医療連携シートを活用し、情報提供を行っている。入院中は面会ができないため電話や家族から本人の状態を確認し、医療関係者や相談員との連携を図る様にしている。オープンハウスを開催してから、相談員との顔の見える連携が取れるようになったと感じる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	昨今、高齢化、重度化にともない、終末期をホームで迎える方が増え、医療、家族、施設がしっかりと連携をとれるように努めている。ACP(アドバンス・ケア・プランニング)の資格を持つ職員が増え、ご家族、ご本人に寄り添い、安心して過ごしていただけることを目指している。	入居時に「認知症対応型共同生活介護が行う看取り時同意書」で説明し、終末期を迎えた際には、再度確認をしている。敬愛祭りの日に亡くなられた方がいて、職員全員に見送られた。デスカンファレンスを実施して、職員間で振り返る場を設けている。	看取りについて今一度見直してみたいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時(昼・夜)のマニュアルを作成し、周知徹底をしている。看護職員や防災委員との連携で災害時、救急時でも実践で生かせる取り組みを行っている。毎回発見や学びが有る。以前、職員が地域にて実際に心肺蘇生を行った。常に実践力を付けていく必要性を感じている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の避難訓練、シミュレーションを継続し、地域の方への協力も図りながら、いざという時のために行動できるよう知識を深めている。今年度は導入した非常電源設備を活用しておしるこを地域の方へふるまった。	年2回、昼夜想定で利用者参加型の避難訓練をしている。訓練の際には、消防署の立会いもあった。緊急連絡網は夜間、実際に連絡を取って非常時に備えている。大雪の際には、施設から近い職員が駆け付けたこともあった。備蓄は、米、水、レトルト食品、衛生用品を2階や倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の尊厳を大切にし、その方らしい生活を送れるように支援しているが、呼称制度や居室入室時の約束事などにおいてはほころびも散見されており、今一度の確認と徹底を図っている。	呼称は、利用者の馴染みの名前呼び、家族の許可も得ている。入室時には必ず言葉を掛け、ノックすることを伝え続けている。敬愛宣言の16項目についての説明を行い、身体に染み込ませたい思いで継続している。エプロンに接遇マナー向上の刺繍を貼り、意識付けできるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、自己決定が自然とでき、その場面を共有する記録を大切にしている。主観すぎる表現は避け、利用者の何気ない一言や普段の会話を記録している。そして、パートナーは常に「私の利用者」と、利用者の代弁者を意識し、利用者主体の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは人それぞれの為、共同生活の中でも本人のペースが守れるよう、無理強いせず、本人の時間と流れの中にケアを組み込む。日々の表情や会話からその人らしさを知り、24時間の時間をチームで支えていく事を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択が難しい方は、本人の好み、生活習慣を大切にし、寝るときに肌着だけの方もいれば、洋服が落ち着く人もいる。自分達の価値観を押し付ける事の無いようにしている。女性であっても顔そりができるように物品をそろえた。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	基本、手作りの食事を提供している。季節各の行事食など工夫し、皆で楽しめるイベントを行っている。体調に合わせてミキサー食やキザミ食も提供している。しっかり五感で楽しめるように工夫している。	食事は3食手作りで、行事食や誕生日のメニューは利用者の要望を反映させている。ばら寿司が好評で、焼肉パーティーや天然の炭火焼鰻を中庭で焼いて提供したら喜んで頂けた。近所の方から頂いた野菜が食卓を彩り、新鮮な旬の野菜を味わえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、必要量が確保出来るようにしている。食事形態も配慮し、医療の指示は守りつつ、本人の習慣に基づいて提供している。高タンパク・高カロリーで、体重増加も考慮した献立をたてている。誤嚥が多く肺炎予防の為に現在ミキサー対応が1名いる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となり、自分で出来ない方は介助をし、清潔保持が出来ている。6月4日の「虫歯ゼロデー」では、辛くないマウスウォッシュをプレゼントしたり、「幸せ(歯あわせ)」体操として食前に口腔体操も行うなど工夫している。必要時は歯科受診へつなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレでの排泄を心がけている。便秘時はホットミルクを飲んでもらったり、腹部マッサージを行っている。排泄パターンの把握を行う。夜間にオシメ着用の方が多くなり、メーカーさんの協力も仰ぎオムツかぶれが軽減するように努めている。	トイレは各ユニット3ヶ所あり、介護ショップとの連携で利用者が使いやすい後付けの手すりを設置している場所もある。夜間のみトイレの回数を経過記録に書いている。トイレ誘導を繰り返した結果、失禁が減りバットが汚れなくなった。排泄失敗時には、「気にせんでええ」、「出ない方が困る」と、優しく耳元で言葉かけをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない利用者には無理なく水分が摂れるよう、好みの飲み物を飲んでもらい、時にはお茶ゼリーなどに工夫して、水分不足による便秘の予防に努めている。食材にも繊維が多く含まれている物や乳製品を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	皆さんの希望によって入浴時間変更も可能である。入浴剤を入れ気分のリフレッシュをはかる。	週2～3回の提供で、毎日入浴を希望する方にも、できるだけ対応するようにしている。約半数の利用者が浴槽内で浸かることができ、入浴を強く拒否される方はいない。季節湯としてゆず湯を提供したり、入浴剤を使用したりして気分転換を図っている。入浴後の保湿ケアとして、軟膏を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで過ごしてもらい、休息は利用者がしたい時に、したい場所でしてもらっている。マッサージチェアが安心する方もいれば、ソファが定位置の方もいる。昼寝が夜間に影響する傾向が見られる場合は、職員で休息について時間帯や時間の長さを調整する対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常に最新のものを職員全員が共有している。薬の変更時は、特に注意深く様子観察をして、服薬方法についてもかかりつけ薬局にすぐに相談し迅速に形態の変更等に対応してもらえ。服薬指示の有る時間帯とのずれが多くなってきたときなどもすぐに相談できる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭の畑で菜園を楽しむ方、他人の世話をする事でイキイキする方。洗濯物をたたむ時にしっかり氏名の確認、仕分けをテキパキする方。たたむことはできなくても、目の前の方をじっと見つめて、手を動かす方もいる。その個性とやる気を引き出す事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭や玄関に行きたい方、不穏気味な方は職員の数によりますが、希望通りに行っている。車に乗ってドライブに行くだけでも気分転換になります。四季を感じながら皆さんに喜んでいただけるように支援しています。	家族会や敬老会を復活させ、外部との関り増やせるように取り組んでいる。外出に代わって施設内では、手作りのパズル、脳トレ、塗り絵といったアクティビティを充実させ、利用者の興味と状況に合わせて行っている。ユニット合同でのボーリング大会や風船バレー、保育園児との交流もできた。	外出に向けて、今から準備を始めてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ自粛の為に金を使う機会がないが、利用者は生活とは常にお金が必要である「感覚」を持ち続けている。その為、毎日「ここの支払いは？」「今の代金は？」と気にしている。不安をなくし、安心できるように「またはらってくれるん？ブゲンシャじゃな〜。」と冗談で笑いあったり。自分で支払っている「自信」「安心」が自尊心を守ることにつながっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「文の日」には利用者が自分の大切な人の為に手作りスタンプを押して葉書を出すことにしている。父の日と母の日には、今まではホームから個人にプレゼントや感謝の言葉を送っていたが、各家族へ事前にカードを用意して、普段なかなか言えない思いを書いていただいた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは日中の大半を過ごす大切な場所です。ソファで休んだり居室で休まれる方もおられますが、快適に過ごせるように工夫している。また、生活感、季節感をわかりやすく、居心地よく過ごせるような工夫もしている。	利用者が興味あることや安心できる活動を職員が汲み取って実施している。新聞や本の音読、タオル畳み、パズル、合唱をしている姿が窺えた。ボランティアの方から頂いた、季節を感じる絵手紙の作品が壁面に飾られていた。ドールセラピーやドッグセラピーにも取り組んでいて、利用者に心の癒しを与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのテーブルの座席の配置は、気の合う人、合わない人を見極めトラブルのすくない居心地の良い場所になるようにしている。安らげる空間を大切にして、利用者が思い思いに過ごせるよう適時模様替えをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は快適に休んでいただく場所です。個人が好きな物を飾ったり、テレビを置いたり、家具を置いている。各パートナーが定期的に衣類の衣替えや掃除を行う。快適に休んでいただけるように努める。	毎日職員の清掃や利用者がゴミ拾いをして心地よい環境を整えて、清潔さを保っている。利用者が身なりを整えるきっかけとなるようにとの思いから、居室に鏡を設置している。家族との写真や利用者をモデルにした大きな絵が飾られ、保育園児から頂いたメダルが温かい雰囲気演出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室も動線に配慮したり、自分で体全体が洗えるようにシャワーチェアも購入した。そのお陰で自分で洗いがつかなかった部分も、洗えるようになった。洗面所も自分で歯ブラシを取って磨けるようにしたり、キッチンが安全や使いやすさを工夫・配慮している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3370300935		
法人名	有限会社 敬愛		
事業所名	グループホーム敬愛		
所在地	岡山県津山市東一宮22-10		
自己評価作成日	令和 6 年 10 月 28 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度は、敬愛グループにおいて「自分たちの真の関りに誇りを持ち 各部署の強みを最大限に生かします」という目標設定がなされた。具体的な中目標として「利用者さんが今求めているものを探求し、真の関りを大切にします」「自分たちの役割を明確にして、強みを利用者さんに還元します」「まずやってみる。その一歩から次につなげていきます」と定められた。それらを踏まえB棟においては、「Reborn」～職員間のコミュニケーションを深め介護知識のレベルアップを図る という部署目標を掲げた。個々としては素晴らしいモノを持っているが連携不足は否めなく入居者様へ還元できていない。今年度は完全にアフターコロナ元年となるのでさらなる飛躍へ向け再生していくことを目指しています。それをわかりやすく具現化したものが、グループホーム敬愛チーム全体で取り組んだ敬愛祭りということになると思います。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3370300935-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 6 年 11 月 14 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

統括の”本当の家と同じ”という願いの元、パートナー(職員)は常に利用者の立場に立ち、ケアに取り組んでいる。利用者、家族、職員、地域の”絆”を大切に、その時々に来ることを、利用者のために臨機応変に努めている。コロナ禍でも美作大学や美作高校の実習生を受け入れ、地域との繋がりをできる限り続けた。地域の祭りも、感染防止に留意し人数制限や縮小して開催した。家族とはSNSを活用し、利用者の様子を即座に写真で送ったり、伝達確認事項を伝えてスムーズな繋がりを持つ様に取り組んでいる。今年度から家族会や敬愛祭りを完全復活し、利用者は心から絆を感じられる時間を過ごせた。これらの前向きに取り組む姿勢は、職員の”心”を育て、利用者や家族の”心”和やかにさせている。理念である「心をみがき心を育て 心の目で見る」の三つの心は絆を大切にした毎日のあたたかいケアとなっている。職員と一緒に”ふるさと”や”茶摘み歌”を楽しんでいる利用者の表情は明るく、寄り添っている職員の表情も生き生きとしていた。利用者にとって”本当の家と同じ”となるように引き続き目指している。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念「三つの心」を管理者・職員が日々、大切にし育み続けられるよう申し送り時に唱和している。新人オリエンテーション時にも、統括より説明している。さらに現場で実践できるために、「敬愛宣言」がいかに現場で生かしているか？常に意識をして支援を見直している。	基本理念は「三つの心」で、指針も3項目あり、事務所と各ユニットのリビングに提示している。実習の際には、唱和している。職員宣言、毎日の目標、各棟の年度目標も掲げていて、日々の介護で迷った際や確認したい場合に、振り返っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方の運営推進会議への出席率が高く活発な意見交換も行われており、地域のこと・ホームのことをお互いよく知ることができている。今年度の敬愛祭りはコロナ禍明けでは初となる地域の方々へ開放する形での開催となり、コロナで薄くなっていたかもしれない地域とのつながりを取り戻すきっかけとなるだろう。	グループホームにやってきた園児から手作りメダルを頂き、おかしの詰め合わせ渡したら喜ばれた。毎年、高校・大学の実習生を受け入れていて、学校繋がりで、アルバイトにきている職員もいる。敬愛祭りを開催した際には、家族や地域の方から「楽しかったです。ありがとうございました。」と感謝の言葉が聞けた。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍でも美作大学、短大、高校の実習生たちを最大限受け入れてきた。今年度もまだ若干制限は残るがほぼ以前の実習形態で行えている。今後も介護の担い手不足解消に向け、敬愛らしさを大切に未来の介護福祉士の育成に協力していきたい。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍も明けホームでの開催を再開できている。出席率も高くホーム側が提供する議題に対して活発な意見交換が行われおり、相互理解と共にホームにおける取り組みの参考になることもある。	町内会長2名、民生委員3名、愛育委員、地域包括センター、高齢介護課、家族代表が参加している。暮らしのようす、セラピードッグの話、敬愛祭りの案内、災害時について話し合った。玄関先に手洗いペーパータオルを置いていたら、感染上よくないとの声が挙がり、すぐに壁掛けに変更した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	制度の改正時など、市の介護高齢課との間で緊密な連携が取れており、ホーム側の不安感解消や円滑な運営につながっている。とりわけ今年度は入居者マイナンバーカード出張作成において、市民窓口課とのコミュニケーションを密に図っている。	窓口の基本は統括が担っている。マイナンバー申請時や加算時にわからないことがあり、直接市役所に向いて確認した。役所が近いので、できるだけ対面で話をするように心掛けているが、電話でやり取りをする場合もある。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の解錠は継続できている。身体拘束については定期的な事業所内研修において認識の徹底を図っている。見守り機器(センサーマットなど)の適切な使用も身体拘束ゼロの実践に欠かせないものとなっている。	委員会では、全国のニュースや事例を参考して、再確認の場を設けている。外部の「高齢者虐待防止研修」にも参加して、月1回の全体ミーティングで周知している。居室内のセンサーマットの安全点検を業者の方と行った。日中は玄関の施錠はしていない。スピーチロックについては、ミーティング時に確認している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「虐待を防止する為の措置を行う事」「早期発見と通報義務を果たすという事」をベースに、身体拘束廃止・虐待防止委員会が中心となって、研修を重ねて理解を深めている。また関連の報道があれば、全体ミーティングにおいて紹介し意見交換を行うことでも意識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	様々な家族の支援状況を把握し、その時々家族からの相談にも応じている。その際に理解しやすいように市役所から発行されている案内パンフレットも準備して家族の支援に努めている。成年後見人についての研修にも、毎年違う職員が参加し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	感染対策として試みていた、事前に書類を渡しご家族に確認と記入をしてもらい、後日不明・不安な点や重要な点は対面で説明する形式が、感染防止だけではなく双方の負担軽減につながる事が分かり、その形を継続している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の関わりの中で利用者の思いを探り、その思いをケアに活かせるように個々に生活リハビリを行っている。家族とは手紙、電話、面会などで密な関係を繋ぎ、ケアプランへの思い、意向を言ってもらい、希望に添えるように努力している。年に一回のアンケートも実施している。またコロナ禍が明け家族会の実施も再開できているので、そういった場も活用していく。	面会は感染対策をした上で居室で行っている。コロナ時の面会をきっかけにLINEを始めて、些細なことでもやり取りがしやすくなった。急死された方の家族の方からは、「今までありがとうございました。」と感謝の言葉が聞け、信頼関係が構築されていたと実感できた。また、2ヶ月に1回、敬愛しんぶんを発行している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで、職員一人ずつ発言する時間を設けている他、定期的に個人面談を行っている。年に一度の職員アンケートを実施して、福利厚生に役立てている。今年度は新たに目安箱を設置して、対面では拾いきれない意見を汲み上げることを目指している。	各ユニットの朝礼や月1回のミーティングにて、意見を聴取している。事務所に意見箱を設置したら、数多くの意見が挙がり、玄関先の落ち葉拾い用の掃除機を購入したり、車イスが通りやすいように非常口を広げたりした。取締役も普段から施設に訪問されているので、何でも話せる関係ができています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、入職時に業務習得の見習い期間を得て自己評価を行い、主任による一次評価、統括による二次評価を行い、給与、賞与に反映している。各管理者研修、実技研修で資質向上の機会を確保している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	ケアの質向上と配置加算による職員への還元を目 指し、職員の介護福祉士国家資格取得を会社を挙 げてサポートしている。その結果として毎年新たな 介護福祉士が誕生している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	津山「ケア研究会」への参加は、情報交換が行え ることにより提供サービスのガラパゴス化を防ぐと いう一面も期待できる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	両棟でほぼ同じタイミングでの入居があり、当初予 定していた棟への入居を「本人や既存入居者が落 ち着いて過ごすことができる」を第一に再考し変更 した。契約変更も伴ったがご家族の理解もあり実 施でき、安心の確保につながった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	家族の抱える困難と、本人の抱える困難が必ずし も同じではない。家族の視点からの思いを、場合 によっては家族だけの時に聞き出す事も大切にし ている。専門的意見として、利用サービス事業者 からの利用時の様子も聞き取りを行い、入居時の 支援に生かした。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活歴、人生を探り可能な限り自宅や現 在過ごしている場所で、本人の望まれている、好 んでいる生活を感じて、環境が変わってもいかにし て本人の望みをかなえるか？本人の秘めた力を 引き出すサービスを見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「パートナー制度」も職員に浸透し、暮らしを共にす る者同士の関係構築が実践できている。また当初 より実施していることだが、退勤の際の挨拶におい て「さようなら」はもちろんのこと「お疲れ様でした」 もNGとし、入居者に「帰る」や「離れる」といった不 安を与えないようにしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	母の日、父の日には家族より手紙を書いてもらったり、家族会への参加を通じ家族にも支援に関わってもらいやすい環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との外出・宿泊自粛は継続中である。そのような状況下でも可能な限り面会を受け入れ、実子以外でも制限せず面会に来てもらっている。	面会は感染対策をした上で居室で行い、月2～3回訪問される方もいる。隔月でパートナー(担当職員)から、手書きの手紙、写真と敬愛しんぶんを同封し、郵送している。携帯電話を持ち込み、毎日家族の方との通話を楽しんでいる方もいる。春には鶴山公園で満開の桜、夏には地元の花火大会へ参加して、馴染みの場所を堪能できた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一つ屋根の下で生活を送って行く中で、時には口論となったり、一方的に怒るような場面もあるが、互いに自然と関係作りが出来ている。職員も過剰な介入はせず、見守る姿勢も大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も家族の相談に乗り、入院中の様子を聞いている。必要に応じて医師、相談員との会議に参加している。退去後数回訪れて入院中の本人の事を話しに来られる家族や、電話連絡をしてくれることもある。また死亡退居となった場合、パートナーが思い出アルバムを作成、手紙を添えご家族にお送りしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の利用者の立場に立って、望む暮らしを大切にするためには、諦めずに可能性を探り続けることであり、常に利用者の「ありのままの自分」、そのすべてを温かく受け入れること。そして、心からの笑顔や笑い声の絶えない居場所を作ることにチームで取り組んでる。	入居時にフェースシート、発症経過シートにて、経歴、家族構成、昔の過ごし方、趣味を把握している。口頭や申し送りノートを活用して、情報を共有している。「太陽を食べるぞ」と意気込んで、日向ぼっこをしたり、畑を耕したりしている。日中、リビングのソファでゆっくり横になっている寛いでいる方もいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の面接を自宅や一番過ごしている場所で行う。家族の思いや入居前に担当していたケアマネジャーから得た情報を共有し把握に努める。生活歴の聞き取りに、フェイスシートを「心の聞き取り」の為に改善し使用している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の生活リズムや趣向を把握。職員はチームケアの実施後の変化など、本人の行動パターン、言動の気づきも大切にしている。各自が、犬が大好きで自分が抱きたい時に可愛がったり、中庭に自由に出入りしながら隣の棟の人と会話を楽しむなどの自由を尊重している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各「パートナー」が本人、家族の要望はもちろん、必要に応じ医療機関にも意見を聞く。介護支援専門員・計画作成担当者とカンファレンスを行い、課題の抽出や解決に重点を置くのではなく、本人の残存機能を引出し、本人主体の生活に生きがいや張り合いが出るような介護計画を作成している。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月後、何もなければ半年毎に見直しをしている。アセスメントシートを活用して、計画作成はパートナー(担当職員)とケアマネジャーと一緒に作成している。日常生活の作業でできることをプランに盛り込んでいる。モニタリングは、大目標は半年ごとに掲げていて、毎日の小目標と照らし合わせている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録はバイタル、食事、水分、介護経過をまとめて見る事が出来るようになっており、そこからの気づき、実践結果もアセスメントに活用している。さらに日々のケアの変更へつながる小さなカンファレンスを伝達ノートで共有した。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族のニーズに沿った医療的支援も実施している。「バルーンカテーテル」の管理や、本来は入院加療が望ましいが医療の指示の下、GHでの療養を継続するケースもある。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議、敬愛祭を通じ常日頃から地域とのつながりを大切にし、不測の事態が生じた際には町内会への連絡も緊急連絡網に組み込まれている。また今年度は非常電源設備を設置し、災害時などは地域住民にも提供することになっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	二週間に一度、各主治医が往診に来てくれているが、他科の受診が必要な場合には、主治医、本人、家族と相談をし、適切な医療を受けられるようにしている。主治医は利用者によって異なり、現在は三か所の医院に協力を得ている。	かかりつけ医は全員が協力医に転医している。往診は月2回で24時間対応。朗読が上手な利用者がいて、ドクターから朗読のリクエストが入るくらい関係性が良い。馴染みの関係になり、ワクチン注射の拒否がなくなった。訪問看護は24時間対応で、毎週来所して頂いている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の訪問時に、様子・状態を伝え情報を共有した上で指示を貰う。必要であれば医師へつなげる。介護現場での不安や疑問に常に真摯に向かい適切に助言をくれる。アイパッドの導入により、迅速に画像が提供出来、連携がスムーズになった。現在尿道バルーン管理中。看取り介護にも対応、協力してもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際には、病院に医療連携シートを活用し、情報提供を行っている。病院の面会制限も緩和されてきており、可能な場合は入院中の面会を再開している。そこで医療関係者や相談員、家族と連携を図り、本人の最新の状態把握に努め退院後のスムーズな受け入れを目指している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期についての方針は入居契約時に説明をしている。終末期には医師からの説明で、ホームで出来る事と出来ない事の理解を深めてもらっている。その内容も年々、変化しているが時代、家族のニーズに常に寄り添ってきた。過去には、ポータブル酸素や人工肛門も受け入れた。近年ではACPの研修に参加し理解を深めている。	入居時に「認知症対応型共同生活介護が行う看取り同意書」で説明し、終末期を迎えた際には、再度確認をしている。敬愛祭りの日に亡くなられた方がいて、職員全員に見送られた。デスカンファレンスを実施して、職員間で振り返る場を設けている。	看取りについて今一度見直してみたいかがでしょうか。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時(昼・夜)のマニュアルを作成し、周知徹底をしている。看護職員や防災委員との連携で災害時、救急時でも実践で生かせる取り組みを行っている。毎回発見や学びが有る。最近では急変による心肺停止時における心臓マッサージの実施に対する法的解釈について、あらためて周知徹底を図った。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回訓練を行っている。地域の特性に生じた、水害時と台風害、地震対応避難マニュアルを作成しており、実際に大災害の後には見直しや、検討を行う。入職時にはオリエンテーションで伝達。実際にスプリンクラーや火災報知機を目で見て、場所や手順の確認を行っている。今年度新たに非常電源設備を設置し、頻発する自然災害への備えを強化した。	年2回、昼夜想定で利用者参加型の避難訓練をしている。訓練の際には、消防署の立会いもあった。緊急連絡網は夜間、実際に連絡を取って非常時に備えている。大雪の際には、施設から近い職員が駆け付けたこともあった。備蓄は、米、水、レトルト食品、衛生用品を2階や倉庫に保管している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時に呼称制度について学び理解して現場につき、尊厳とは生活の場において何を守り何が大切なのか？居室はその方の部屋であり、入室時には必ず声を掛けノックすることを伝え続けている。敬愛宣言においても16項目について説明を行っていき、実施できてきている。	呼称は、利用者の馴染みの名前呼び、家族の許可も得ている。入室時には必ず言葉を掛け、ノックすることを伝え続けている。敬愛宣言の16項目についての説明を行い、身体に染み込ませたい思いで継続している。エプロンに接遇マナー向上の刺繍を貼り、意識付けできるようにしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、自己決定が自然とでき、その場面を共有する記録を大切にしている。主観すぎる表現は避け、利用者の何気ない一言や普段の会話を記録している。そして、パートナーは常に「私の利用者」と、利用者の代弁者を意識し、利用者主体の支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活リズムは人それぞれの為、共同生活の中でも本人のペースが守れるよう、無理強いせず、本人の時間と流れの中にケアを組み込む。日々の表情や会話からその人らしさを知り、24時間の時間をチームで支えていく事を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服の選択が難しい方は、本人の好み、生活習慣を大切にし、寝るときに肌着だけの方もいれば、洋服が落ち着く人もいる。自分達の価値観を押し付ける事の無いようにしている。女性であっても顔そりができるようにフェイスシェーバーを備えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食の好みを職員は把握し、メニューが偏らないようにしている。食事を五感で楽しむものとして、夏は本物の竹でそうめん流しをし、土用の丑では生のウナギをホームの庭で当日目の前で炭火で焼いて自家製のたれで食べ、秋は焼き芋パーティなど、心を動かし体も元気になる支援をしている。	食事は3食手作りで、行事食や誕生日のメニューは利用者の要望を反映させている。ばら寿司が好評で、焼肉パーティーや天然の炭火焼鰻を中庭で焼いて提供したら喜んで頂けた。近所の方から頂いた野菜が食卓を彩り、新鮮な旬の野菜を味わえている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は記録し、必要量が確保出来るようにしている。食事形態も配慮し、医療の指示は守りつつ、本人の習慣に基づいて提供している。本人の食べたい量・食べられる量と体重の増減に目を配り、個別に対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは習慣となり、自分で出来ない方は介助をし、うがいができない方はスポンジブラシで対応したりなど清潔保持が出来ている。また義歯調整など必要時は歯科受診へつなげている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、トイレでの排泄を続けられるように努めると共に、排便マッサージを訪問看護に伝授してもらい技術の取得にも努めている。なるべく薬の使用ではなく日常生活内で、温罨法や牛乳・寒天での刺激により排便につなげている。また下剤使用する場合でも主治医指示のもと、細やかな調整により本人の苦痛軽減に努めている。	トイレは各ユニット3ヶ所あり、介護ショップとの連携で利用者が使いやすい後付けの手すりを設置している場所もある。夜間のみトイレの回数を経過記録に書いている。トイレ誘導を繰り返した結果、失禁が減りバットが汚れなくなった。排泄失敗時には、「気にせんでええ」、「出ない方が困る」と、優しく耳元で言葉かけをしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量が少ない利用者には無理なく水分が摂れるよう、好みの飲み物を飲んでもらい、時には寒天ゼリーなどに工夫して、水分不足による便秘の予防に努めている。食材にも繊維が多く含まれている物や乳製品を多く取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午前、午後入浴可能。入居者様の希望に添い入浴を行いたい、スタッフのシフトや勤務体制により、希望に添えない場合もある。基本は一人三日は開けずに入浴しており、本人のタイミングも大切にしている。ハード面においては、重度化に伴いシャワー浴対応者も増加しており、車輪付きのシャワーチェアを購入した。	週2～3回の提供で、毎日入浴を希望する方にも、できるだけ対応するようにしている。約半数の利用者が浴槽内で浸かることができ、入浴を強く拒否される方はいない。季節湯としてゆず湯を提供したり、入浴剤を使用したりして気分転換を図っている。入浴後の保湿ケアとして、軟膏を塗布している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分のペースで過ごしてもらい、休息は利用者がしたい時に、したい場所でもらっている。マッサージチェアが安心する方もいれば、ソファが定位置の方もいる。昼寝が夜間に影響する傾向が見られる場合は、職員で休息について時間帯や時間の長さを調整する対応をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報は常に最新のものを職員全員が共有している。薬の変更時は、特に注意深く様子観察をして、服薬方法についてもかかりつけ薬局にすぐに相談し迅速に形態の変更等に対応してもらえ。服薬指示の有る時間帯とのずれが多くなってきたときなどもすぐに相談できる。服薬忘れの再発防止策を薬局と協同行い、薬袋の改善につながった。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	中庭の畑で菜園を楽しむ方、他人の世話や赤ちゃん人形をあやす事でイキイキする方。洗濯物をたたむ時にしっかり氏名の確認、仕分けをテキパキする方。たたむことはできなくても、目の前の方をじっと見つめて、手を動かす方もいる。その個性とやる気を引き出す事を大切にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭で太陽を浴びたい方、時に玄関から出て西の景色が見たい方、散歩に行きたい方、日々の希望に添っての支援を大切にしている。コロナの外出自粛は継続中だが、条件が整えば少人数での外出は実施している。認知症カフェへの参加、お花見、花火鑑賞など。また系列のデイサービスが休みの日に全体で移動し、そこで一日を過ごしたこともあった。	家族会や敬愛祭りを復活させ、外部との関り増やせるように取り組んでいる。外出に代わって施設内では、手作りのパズル、脳トレ、塗り絵といったアクティビティを充実させ、利用者の興味と状況に合わせて行っている。ユニット合同でのボーリング大会や風船バレー、保育園児との交流もできた。	外出に向けて、今から準備を始めてみてはいかがでしょうか。

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出自粛中の為にお金を使う機会がないが、利用者は生活とは常にお金が必要である「感覚」を持ち続けている。その為、毎日「ここの支払いは？」「今の代金は？」と気にしている。不安をなくし、安心できるように「またはらってくれるん？ブゲンシャじゃな〜。」と冗談で笑いあったり。自分で支払っている「自信」「安心」が自尊心を守ることにつながっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	父の日と母の日には、各家族へ事前にカードを用意して、普段なかなか言えない思いを書いていただいている。入居者からは暑中見舞いを書いて家族へ送っている。携帯電話が使用できる方には持ち込みや使用を制限することはなく、自由に家族とお話されている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日々の掃除や消毒に加え、節目での大掃除やワックス掛け(業者)を行い清潔な環境を維持できている。「生活の場である」との認識を強く持ち、特に掲示物の内容には気を配っている。建物の経年劣化による不具合に対しても迅速に対応している。外光取り入れ天窓からの日差しが強いとのことで、当社取締役自ら屋根に上り日よけを設置したり等、会社全体で居心地のよい空間づくりに努めている。	利用者が興味あることや安心できる活動を職員が汲み取って実施している。新聞や本の音読、タオル畳み、パズル、合唱をしている姿が窺えた。ボランティアの方から頂いた、季節を感じる絵手紙の作品が壁面に飾られていた。ドールセラピーやドッグセラピーにも取り組んでいて、利用者に心の癒し与えている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースのテーブルの座席の配置は、気の合う人、合わない人を見極めトラブルのすくない居心地の良い場所になるようにしている。安らげる空間を大切に、利用者が思い思い過ごせるよう適時模様替えをしている。テーブル席を離れてもフロアで過ごせるようにソファも設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の家具は使い慣れた物を持ち込み自由に行っている。ベッドの配置にも考慮し、景色が見やすいか？車椅子の動線はどうか？個人にあった居室づくりを大切にしている。ベッドも状況に合わせた必要な人が介護用ベッドを使用し、自立度に合わせて木製のベッドも使用している。	毎日職員の清掃や利用者がゴミ拾いをして心地よい環境を整えて、清潔さを保っている。利用者が身なりを整えるきっかけとなるようにとの思いから、居室に鏡を設置している。家族との写真や利用者をモデルにした大きな絵が飾られ、保育園児から頂いたメダルが温かい雰囲気演出していた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	オープン当初と比較し入居者の状態も重度化しており、既存のハード面では安全と自立の両立が難しくなっているケースもあるが、手すりの増設や福祉用具の導入などにより可能な限り対応している。また今年度は、中庭の水道栓を地面から縦型水栓へ改良し、車椅子の方にも安全に水撒きができるようにした。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				